

***X3 テストカセット、テストカップは再使用禁止**

ミニCASA X3 PRO

*【禁忌・禁止】

X3 テストカセット、テストカップは再使用禁止

**【形状・構造及び原理等】

1.構成

①レンズフック X3 PRO
タッチスクリーン



②電源アダプター



③X3 テストカセット



④テストカップ



⑤QC ビーズ ⑥QC レティクル ⑦QC ビデオ

**2.レンズフック X3 PRO 定格等

タッチスクリーン 5 インチ

電源アダプター AC100V~240V、50・60Hz、

タイプ A:DC 出力 5V/2A、タイプ B:DC 出力 5V/3A

縦 93 mm × 横 140 mm × 高さ 80 mm

3.原理

精子の動きを CCD カメラで撮影する。次に撮影画像で精子の頭部を認識して、頭部が1秒間に動く軌跡等を測定し、表示する。

【使用目的又は効果】

本品は、試料中の精子の濃度を測定し、活動度(運動性)の特性を数値化して示す装置である。

*【使用方法等】

1.精液の採取

- (1)テストカップに精液を採取する。
- (2)採取後、20℃~37℃の温度を保つ。
- (3)精液が液化するまで 30 分待つ。
- (4)テストカップを 8~10 回ひっくり返して精液を混ぜる。

2.X3 テストカセットの準備

- (1)ロックを操作し、水平に開き平らな場所に置く。
- (2)1stウインドウ及び 2nd ウインドウに精液を滴下する。
- (3)X3 テストカセットを閉じ、ロックを掛ける。

3.計測の開始

- (1)タッチスクリーンに表示が出るまで、電源ボタンを長押しする。
- (2)タッチスクリーンの「System Analysis」をタッチする。
- (3)「Patient ID」をタッチする。キーボードが表示されるので ID を入力する。
- (4)タッチスクリーンの指示に従い以下の項目を設定する。
「Sample Type」、「Liquefaction」、「Liquefaction Treatment」、
「Visual Appearance」、「Viscosity」、「Ejaculate Volume」を設定し、
Next をタッチする。
- (5)最後に「Start」をタッチする。
- (6)レンズフック X3 PRO のテストカセット挿入スロットに X3 テストカセットを奥まで押し込む。

4.電源の遮断

- (1)タッチスクリーンに「Do you want to shut down now ?」と表示するまで、電源ボタンを長押しする。
- (2)「Yes」をタッチすると電源が切れる。

*【使用上の注意】

- 1.精液は採取後 20℃~37℃で保存すること。
- 2.精液は採取後液化を確認してから X3 テストカセットに滴下すること。
- 3.X3 テストカセットに滴下後、30 秒以内に測定を開始すること。
- 4.X3 テストカセットは再使用禁止。使用後は廃棄すること。
- 5.X3 テストカセットの滴下部、ウインドウ面に触れないこと。
- 6.期限切れの X3 テストカセットを使用しないこと。
- 7.テストカップは再使用禁止。使用後は廃棄すること。
- 8.測定中はレンズフック X3 PRO を動かさない、X3 テストカセットを抜かないこと。
- 9.テストカセット挿入スロットには X3 テストカセット以外のもの、指を入れたりしないこと。
- 10.本品構成品の電源アダプター、X3 テストカセット、テストカップ以外の他社製品を使用しないこと。

*【保管方法及び有効期間等】

X3 テストカセット 保管可能期間 2 年(外装に表示)

テストカップ 保管可能期間 2 年(外装に表示)

レンズフック X3 PRO の耐用期間

指定の保守・点検並びに部品の交換を実施した場合の耐用年数
:5 年 [自己認証(当社データ)による]

*【保守・点検に係る事項】

1.使用者による保守点検事項

- 1) 電源アダプターケーブルに切れ、裂けが無い確認する。
- 2) レンズフック X3 PRO に亀裂や割れ、異常な膨張が無い確認する。
- 3) テストカセット挿入スロットのクリーニングを行う専用のキットを用意している。詳細は製造販売業者へ確認すること。

2.業者による保守点検事項

(株)インテグラルは保守点検を受託することができる。

	主な点検項目	点検頻度(推奨)
1	内部バッテリー検査	1 回/1 年
2	性能試験	
3	電気安全試験	

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

< 製造販売業者 >

株式会社インテグラル

< 外国製造業者 >

Bonraybio Co., LTD. 製造国 台湾

取扱説明書を必ず参照すること